

横浜市歴史博物館及び三殿台考古館指定管理者選定委員会

横浜市三殿台考古館

議事要旨

◆第1回選定委員会

議題	1. 委員長の選任 2. 業務基準、公募要項、提案課題、評価基準の検討 3. 選定スケジュール、評価手順の確認
日時	平成17年7月4日（月）午後3時から午後5時まで
開催場所	関内駅前第二ビル2階 特別会議室
出席者	上山 和雄（國學院大学教授） 川口 徳治朗（神奈川県立歴史博物館学芸部長） 齊藤 毅憲（横浜市立大学教授） 西田 由紀子（よこはま市民メセナ協会会長） 水嶋 英治（常盤大学大学院教授） 室谷 参（横浜市立小学校長会 並木第四小学長）

- 審議内容：○ 委員会運営決定事項
- ・ 齊藤 毅憲委員を委員長に決定
 - ・ 今後の委員会の公開非公開の決定
- 業務基準、公募要項、提案課題、評価基準、公募要項の検討
- ＜業務基準について＞
- ・ 市としての文化財等施策の「基本方針」、施設の「業務基準」について
 - ・ 専門性の担保について
- ＜公募要項について＞
- ・ 一次、二次の二段階方式、手順、スケジュールについて
 - ・ 一次、二次の審査の方法、採点の分離、最低ライン設定について
 - ・ 評価の点数化の方法について
 - ・ 評価結果の応募者への伝達のあり方、審査報告書のあり方について
 - ・ 具体的な評価ポイントの事前公表について
 - ・ 透明性の確保について
- ＜提案課題について＞
- ・ 課題の内容について
 - ・ 応募者の創意工夫を受け留める自由提案について
- ＜評価基準について＞
- ・ 評価の判断基準の共有化について
 - ・ 経費削減、収支予算の評価について
 - ・ 提案書類と実態能力の乖離を小さくする方法について
 - ・ ヒアリングのあり方について
- 決定事項
- ・ 公募スケジュールの決定
 - ・ 業務基準、公募要項、提案課題、評価基準の決定

◆第2回選定委員会

議題	1. 一次審査 2. 一次審査通過団体の決定
日時	平成17年8月22日（月）午前11時から正午
開催場所	関内駅前第二ビル2階 特別会議室
出席者	齊藤委員長、上山委員、川口委員、西田委員、室谷委員

審議内容：○経過の確認

- ・公募告知、要項等配布の状況
- ・公募説明会の参加状況、現場見学会の状況
- ・質疑応答の状況

○応募団体確認

- ・1団体の提案の確認
- ・欠格条項非該当の確認

○一次仮評価の検討

- ・評価得点の確認
- ・通過最低ラインの確認

○1団体からの一次提案書の審査

<三殿台考古館の位置づけについて>

- ・考古学の専門館という位置づけが薄らいでいる。野外施設を持つ博物館であることは歴史博物館の同様であり、縄文、弥生、古墳と長期に暮らすのに好適な土地であったことを訴えていくべきではないか。施設のアプローチなどもあまりにお粗末である。指定管理者の問題だけではないが、そのような提案がないという点は厳しく見なければならぬと指摘された。

<運営体制について>

- ・財団としてはこの運営に適した専門人材はいても、それは他施設にいてここには専門人材はいないというはどうか。連携して、週に一度来るといったことで実質的な役割を果たせるのかは疑問であるといった指摘がなされた。

<歴史博物館との差別化について>

- ・三殿台の魅力を引き出して、歴博が代替するのではなく、三殿台は三殿台のよさ、役割を明確に主張すべきである。学校利用なども歴博とは異なる使い方ができるし、交通不便地だからこそ学ぶものもある。差別化の提案が望まれるといった意見が提起された。

<回遊性をつくるなど創意工夫について>

- ・子供たちが他の施設と回遊性をもって回れるような提案が欲しかったといった意見が出された。

<全体として>

- ・指定管理者として運営を委ねるに十分な提案内容を有することは全員が一致した。しかし、三殿台考古館の持つ価値や意義を踏まえれば、もっと積極的な提案、創意工夫ある提案が望まれるといった評価がなされた。

○ 一次通過者の決定

- ・最終採点の結果、提案内容に安心感と安定感があり、総合力の高さが評価され、3以上評価の獲得率も100%と一次審査の通過最低ラインも問題なくクリアし、評価得点は1050点中804点と高い評価点を獲得したことから、一次審査通過と決定された。提起された課題については、二次提案及びヒアリングに確認したいとされた。

■一次審査結果： 一次審査通過団体

財団法人横浜市ふるさと歴史財団

◆第3回選定委員会

議題	1. ヒアリング 2. 二次審査 3. 最優秀提案者の決定
日時	平成17年10月9日（日）午前10時30分から午前11時15分
開催場所	横浜開港資料館 講堂
出席者	齊藤委員長、上山委員、川口委員、西田委員、水嶋委員、室谷委員

審議内容：○ 経過の確認

- ・ 二次現場説明会の状況
- ・ 二次質疑応答の状況

○ 二次提案書提出応募団体確認

- ・ 1団体提案の確認

○ 二次仮評価の検討

- ・ 評価得点の確認
- ・ 通過最低ラインの確認

○ 一次通過1団体からの二次提案書に対するヒアリング

<考古学の専門館としての位置づけについて>

- ・ 三殿台の価値、意義を主張する提案というよりも歴博同様な方向性で、独自性が見えないといった質問に対して、予算的にも人的にも厳しい中で、市民協働による運営という方向性で新たな活用の方向性を見出したいという提案があった。

<市民との協働による発展について>

- ・ 市民とともにというコンセプトをより大きく発展させていくようなプランはあるのか、という問いに対して、将来的には施設の運営自体、資料に触れるような仕事までも市民の活動にシフトしていくことを考えているという回答があった。

<市民を巻き込む仕掛けについて>

- ・ 市民とともにという部分を具現化するしかけはどのように考えているのかという問いに対して、参画してもらおう市民にもメリットがあるように、花を植えてみようといったような考古にあまりとらわれない柔軟にテーマを設定して市民が集えるきっかけを作りたい。イベント会場として使うなども含め、市民に来てもらうことをまず取組みたいという回答があった。

<ボランティアの活用について>

- ・ ボランティアなどは活用しているのかという問いに対して、歴博では導入しているが三殿台ではまだであり、重要な問題と認識していると回答があった。

<提案の具体化の体制について>

- ・市民協働を実現するにも、現在の体制では難しいのではないか、若い常勤スタッフなどを配置して取組まないとは実現できないのではないか、という質問に対して、専門人材は兼務という提案であるが、十分新しい活動を作っていくことは可能と考えていると回答があった。

<専門集団としての取組みについて>

- ・収支の計画なども非常にあまりに小さな小手先の工夫に努力しているように見える。三殿台の意義役割を専門家として評価するなら、もっと市を切り返すような提案をしてもよいのではないかという質問に対して、実態的に可能な最大限の努力をしたものを提起したといった回答があった。

<専門性の担保について>

- ・市民を集めるというのは確かにあろうが、本質的な専門性をどう担保するかと考えると、もっと歴史博物館や埋蔵文化センターとの具体的な組織を作る、あるいは、それぞれに三殿台部門があるなどより明確な仕組みがないと本来の機能が失われていくのではないかとという質問に対して、常勤配置は現状では厳しく、兼務でも実効性ある取組みができるという回答があった。

<アルバイトなどの導入における工夫について>

- ・アルバイトの人員構成に、インターンシップの活用や人材育成といった視点を持っているかといった質問に対して、即戦力として一部校長経験者の導入を考えているか、そのような人材も視野にいれていきたいという回答があった。

○ 二次審査

<サービスの質の向上について>

- ・市民を集めるといった集客が目的ではなく、市民サービスの向上とはその本来的な機能の質の向上ではないか。その根幹的な部分をもっと重視されるべきであるという指摘がなされた。

○ 最優秀提案者の決定

- ・最終採点の結果、3以上獲得割合7割という最低基準ラインに対して100%、評価得点1470点中1104点と高い評価を獲得し、最優秀提案者として決定することに全員が一致した。

■二次審査結果： 最優秀提案者

財団法人横浜市ふるさと歴史財団